

なんと  
南砺市  
利  
賀

とが

散策  
MAP

人と大自然を育み、ゆっくりと流れる芸術の地

美しい山々と二本の清流が縦断する緑豊かな大自然の中で  
脈々と受け継がれてきた伝統や文化が息づいています。  
劇団「SCOT」や「新そばを味わう祭り」など地元の人々との触れ合いにより  
確かな歩みを遂げてきた古くして新しい村といえます。



E-2 利賀芸術公園

国際的に「演劇の利賀」として知られ、世界一流の舞台芸術家が訪れる地です。合掌造り家屋を改造した劇場「利賀山房」やギリシャ風「野外劇場」などを舞台に繰り広げられる質の高い舞台芸術は、国内外で高い評価を受け、諸外国の演劇関係者からは、「演劇の聖地」とまで言われています。

TEL.0763-68-2028【営業時間】9:00~17:00  
【定休日】冬期休園(12/1~3/31)



F-1 金剛堂山

南砺市と富山市にまたがる標高1,638mの山で日本二百名山のひとつ。山頂では360度見渡せる大パノラマと、北アルプスの稜線の美しさに見とれ、富山湾まで望める圧巻の景色に心洗われます。登山シーズンは6~9月。



A-4 庄川峡

小牧ダムを中心とする庄川峡は、春は桜、夏は緑あふれる山々、秋は紅葉、冬は雪景色と四季折々の姿に心奪われます。湖上遊覧船で往復すれば、湖面から見る山々の美しさに身も心も癒されます。

庄川遊覧船 TEL.0763-82-0220【定休日】無休  
【料金】定期航路往復：大人2,800円 小人1,400円  
シャトルクルーズ(要予約)：大人1,000円 小人500円(団体割引あり)

E-2 瞑想の郷

ネパール王国・ツクチェ村との友好の象徴として建てられた。ツクチェ村の絵師を招き、1年の制作期間を経て完成させた4m四方の曼荼羅が4面に展示されています。間近に観賞すれば、その迫力に圧倒されることでしょう。

TEL.080-8043-8583  
【営業時間】9:00~16:00  
【定休日】毎週水曜(祝日の場合は開館)、冬期休館(12月~4月中旬)  
【料金】一般600円 小学生300円(団体割引有)



C-3 道の駅利賀

(利賀STORE & 利賀の山café)



「利賀市民センター」内にある道の駅。地元の人々も利用する売店には、利賀おやきや白餅かぼちゃケーキなどの特産品も販売しています。24時間いつでも利用可能なトイレや駐車場が整備され、乳幼児のおむつ交換も可能なベビーコーナーも設置されました。施設内には、利賀に縁の深い戯遊詩人・泉椿魚氏の作品50点も飾られています。

TEL.0763-68-2016(利賀地域づくり協議会)  
【営業時間】8:30~17:15  
【定休日】土日祝・年末年始

お問い合わせ

南砺市観光協会利賀村支部

〒939-2507 富山県南砺市利賀村171(地域づくり協議会内)  
TEL (0763)68-2016 FAX (0763)68-2875

一般社団法人 南砺市観光協会

〒939-1852 富山県南砺市是安206-22(JR城端駅内)  
TEL (0763)62-1201 FAX (0763)62-1202

HP <https://tabi-nanto.jp/> くわいは

※2024年10月現在の情報です。

SCOTサマーシーズン

【毎年8月下旬~9月上旬】

「世界は日本だけではない、日本は東京だけではない、この利賀村で世界に出会う」のスローガンのもと開催される世界演劇祭です。池を擁した野外劇場や合掌造りの劇場「利賀山房」などで繰り広げられる演劇との新しい出会いの場となります。



新そばを味わう祭りinTOGA

【10月下旬】

利賀の新そばを味わう祭り。利賀のごっつお(岩魚や五平餅など)の販売や、そば打ち名人の実演、全国のそば食べ比べ、郷土芸能の披露など。新そば限定5,000食 本物の味を食べへにござっさい!

TEL.0763-68-2016  
【会場】利賀国際キャンプ場周辺  
【主催】新そば祭り実行委員会



B-2 脇谷のトチノキ

全国でも数少ない国指定の天然記念物の栃の木。幹回り11.89m、樹高20mの樹齢800年の大木です。トチノキは老木になると幹にコブができるが、本樹にはな滑らかであることも特徴。



E-3 坂上の大杉

坂上八幡宮境内にあり、富山県内でも屈指の大杉です。幹回り11m、樹高40m、樹齢約700年で、内部は一部空洞化しているものの、いまなお旺盛な成長を続けています。

山村の林業体験

昔、山の中でキコリが木を伐採して、出荷するまではいろんな道具を使って作業を行っていました。木を切るにも様々な大きさのノコギリが必要で、今では、使われていない、大きな木挽き鋸も使われていました。子どもたちが自然の中で、かつては斧やノコギリなどを使用して伐採作業が行われていたことを自身で体験することで、森林環境の大変さや技術が必要だということを感じる貴重な体験。

TEL.0763-68-2177  
(一社)moribio 森の暮らし研究所



